

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【東大成小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	
思考・判断・表現	

今年度の課題と学力向上策		
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 国語「言葉の特徴や使い方に関する事項」 算数「数と計算」 <指導上の課題> 学年間・個人間で大きな差がみられる。個別の支援の時間がなかなか確保できない。	⇒ 授業の始めや単元の終末に学習内容を振り返る時間(習熟の時間)を設ける。【単元ごと】 ドリル・ワーク等を活用し、個別最適な学びの充実を図る。【週に1回以上】 児童の実態を共有し、個別支援の充実を図る。また、それに対する成果と課題を振り返り、指導に活かす。【1ヶ月に1回】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 国語「書くこと」「読むこと」 算数「図形」 <指導上の課題> 学年間・個人間で大きな差がみられる。自身の考えを説明する活動や他者と学び合う活動を充実させていく必要がある。	⇒ 授業の終わりにその時間で自分が学んだことを振り返る時間を設定する。【毎時間】 話し合い活動では、ICTなどの思考ツール等を活用しながら自身の考えを説明する活動を行い、協働的な学びの充実を図る。【単元ごと】 校内研修会をとおして共通理解を図り、「学び方」「教える方」改革を推進し、児童の思考力・判断力・表現力を育成できる授業実践をする。【通年】

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能		①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等
思考・判断・表現		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、全国平均をわずかに上回ることができた。しかし、無回答率は、全国平均よりも高いことが分かった。全体指導の充実を引き続き行い、苦手意識のある児童については、ICT等を活用するなど、個別支援を行っていく必要がある。 算数「数と計算」については、全国平均を上回ることができ、一定の成果がみられる。しかし、問題別にみると分数の計算の問題が全ての問題の中で正答率が一番低く、全国平均も下回った。系統性を意識し、既習の問題を振り返りながら領域ごとの指導にあたり、知識・技能が習得できるようにしていく必要がある。
思考・判断・表現	国語の「思考・判断・表現」の問題の正答率が、全国平均を大きく(7pt)上回った。大きな成果がみられるので、引き続き取り組んでいきたい。領域別にみると、「読むこと」の正答率が低い問題が複数あり、資料から必要なことを読み取ることに課題がみられた。教科書教材を中心に、目的に応じて、文章と図表などを結び付ける力がつくように指導していきたい。 算数「図形」の問題については、正答率が全国平均を上回ることができ、一定の成果がみられる。しかし、問題によっては、全国平均を下回っているものも見られた。特に、五角形の面積を求める問題では、既習の公式を活用方法がわからず、誤答や無回答の児童が多かった。基本的な問題をしっかりとおさえ、公式等を活用できるように指導していく必要がある。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	授業の始めや単元の終末に学習内容を振り返る時間(習熟の時間)を設けることで、小テストや単元テスト等で学習の成果がみられている。ICTは、発達段階に応じて授業や宿題等で活用している。 また、学年間の児童の実態や学校全体での情報共有を密に行っており、低学年を中心にスクールアシスタントを活用して、個別支援を手厚く行うことができている。	変更なし
思考・判断・表現	B	ワークシートやICTの記録シート等を用いて授業の終わりにその時間で自分が学んだことを振り返っている。校内研修を通して、話し合い活動を積極的にを行い、学級活動や教科指導で協働的な学びを推進している。 また、学び方改革推進担当を中心に校内研修を通して「学び方」「教える方」改革に取り組んでいる。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)